

高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議（新見部会）議事録

日時：令和5年6月8日(木)

13：30～14：30

場所：新見市役所南庁舎3階大会議室

出席者（13名）

新見市医師会2名、岡山県介護支援専門員協会新見支部1名、新見市在宅医療・介護連携支援センターまんさく1名、新見市包括支援センター2名、岡山県備北保健所新見支所1名、岡山県備中県民局健康福祉部健康福祉課2名、さきがけホスピタル4名

1. 開会 部会長 新見市包括支援センター 青木主幹より挨拶

2. 意見交換

(1) 高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議の位置付け・役割について
さきがけホスピタル精神保健福祉士 妹尾より

(2) 岡山県認知症疾患医療センター実績報告
さきがけホスピタル 兒玉センター長より

(3) 高梁部会研修会について
○令和4年度研修会報告

○令和5年度の研修会について

昨年度の研修会も踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」となったことを受け、感染対策を行いながら極力対面での研修会を進めていきたい意向を事務局から示した。その上で、下記のような提案がなされた。

- 新見市では今年、本人ミーティングを2か月に1回行っている。参加したいという声は聞くが、メンバーが固定されがちでもっと盛り上がれば良いのと思う。地域の人に広く関心を持ってもらえるような研修会になれば。
- 障害のある子どもの面倒をみていた親が認知症になって、障害のある人が支援をするような構図になっているケースをよく見る。支援の限界が見えていても、実際の家族の力と支援が見合わない、分からないような人もいる。大きな課題だと思う。また、家族と話をしていると「こういうのうただけかな？」と不安を教えてくれることがあり、そういった方がいろんなケースの話の聞ける場があると少し違うのではと思う。
- 本人や家族に対しての取り組みやカフェはあるけれど、実際にそういった方々がどのように生活されているのか、苦労していることや対処の仕方・どうやって乗り越えたのかといった話を聞くような機会が意外とない。言いたいことがあって、それを聞いてもらうような場があるのは良いのではないか。
- 薬のことは知識として知っておく必要があると感じている。また、認知症の親を支える障害や引きこもりの子どもについても考えていく必要があると思う。

今年度の研修会は下記のように行っていくこととなった。

- 9月に一般の方向けを対面で、2月に対面とZOOMを併用した形で専門職に向けての研修会をそれぞれ1回ずつ企画する。
- 9月は昨年度に倣って包括と合同での開催とし、介護家族の話を聞く場を設ける。
- 2月は専門職向けに認知症と薬について、対BPSDや新薬にも触れながら話を行う。

(4) その他協議事項について
無し

3. 閉会 部会長 哲西町診療所 土井先生より挨拶